

何のための「大阪都」?

「一人の指揮官」で くらし壊し、やりたい放題

大阪市民は5月の「住民投票」で、「都構想」に「ノー」を突きつけました。ところが維新はわずか半年前の敗北の総括もなく、しかも修正した「構想」を示さずに再び持ち出してきました。

「都構想」は、①大阪市も24区もなくし、②その権限・財源を「大阪都」に吸上げ、カジノ誘致を中心とする大型開発に注ぎ、③「一人の指揮官」(知事)でやりたい放題できる体制をつくることです。

橋下語録

「日本の政治のなかで一番重要なのは独裁」(2011年6月29日、政治資金パーティ)といい、市職員には「皆さんは国民に命令する立場になった」と訓辞しました。職員に絶対服従を強いる橋下市長は、職員を通じて市民を「統制」しようというのです。

「二重行政」の ペテンで病院つぶし

「二重行政」のムダを解消すると、大事な施設や施策を目の敵にしています。市民に良いことは国・府・市と二重にも三重にもするべきです。

大阪府		大阪市
障がい者交流促進センター	福祉	障がい者スポーツセンター
府立急性期・総合医療センター	医療	住吉市民病院
府立公衆衛生研究所	保健・環境	市立環境科学研究所
府立中央図書館	文化	市立中央図書館
府立体育会館	スポーツ	市立中央体育館
ドーンセンター	男女共同参画	クレオ大阪
マイドーム大阪	中小企業支援	産業創造館
府立大学	大学	市立大学

それぞれ役割を分担し、たくさんの方が利用されています。
信用保証協会は2014年5月に統合され、中小業者を困らせています。



「独裁」で住民統制の機構づくり

「都構想」は、大阪が成長するための「手段」と説明する維新が「大阪を変える」と叫んでいます。ここで維新が「変える」というのは「統治機構」のこと。地方自治体の主人公は大阪府民であり市民です。維新は地方自治体を上から目線で「統治」する「機構」に作り変えようというのです。

「都構想の試金石」というカジノに固執

橋下市長は、カジノは「大阪都構想の試金石」と言って推進してきました。市民から「ギャンブル依存症が増える」と不安の声があがるとともに、財界からも「カジノができればすべてが解決するかのよう」に思われているが、大阪をこんな都市にするというビジョンを見せるのが先」との指摘がされています。

橋下語録

「こんな猥雑な街、いやらしい街はない。ここにカジノを持ってきてどんどんバクチ打ちを集めたらいい。風俗街やホテル街、全部引き受ける」(2009年10月)「小さいころから勝負を積み重ねて勝負師になれないと世界に勝てない」(2010年10月28日、カジノ推進団体の総会で)



「身を切る改革」は 市民サービス切り捨ての入り口

維新政治は「身を切る改革」と言って知事の退職金をゼロにした、職員を削減したなどと宣伝しています。しかし、実際はそれを入り口にして「いのちとくらしを守る本来の仕事」をバツサリと切り捨ててきました。

維新府政の7年間で1551億円の削減、維新市政の3年間で469億円も市民施策が削減されました。

退職金ゼロ。実は、手取りは348万円増 知事

知事退職金、全国初の「ゼロ」と宣伝していますが、実際には受け取る額が増えます。1期4年の退職金(1257万6000円)をなくすかわりに48ヵ月の報酬に分割して上積みします。これが夏冬のボーナスの増につながるため、4年間で348万円も手取りが増えます。